明治廿九年七月一日印刷
明治廿九年七月三日發行

婦人衛生雜誌

第八十號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第八拾號
目次

講演

◉生理學講義（第六回）　醫學博士　坪井次郎君
◉種痘發明者善那氏頌德の記

衛生叢談

◉警視廳東京府告示
◉再歸熱流行地及ひ患者數
◉岩手縣知事の告諭
◉全國虎列剌病患者と死亡者
◉嚴禁したる差入物の種類
◉濤害地の病傷者
◉海濤と疾病
◉沸騰散
◉大日本婦人衛生會の救恤
◉廣告

大日本婦人衛生雜誌
第七拾九號
目次

講演

◉眼の保護器并保護眼鏡に就て　醫學士　甲野棐君
◉ペスト病に就て

衛生叢談

◉菓子の話
◉回歸熱に關する訓令
◉大日本婦人衛生會新潟支會發會式の景況
◉同支會に於ける田代亮介君演說
◉新潟支會贊成員
◉日本に於ける種痘の由來
◉生死に關する統計
◉香港の黑死病及其注意
◉善那氏百年紀祭
◉廣告

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹告

小松宮彰仁親王妃頼子殿下

を我大日本婦人衛生會の總裁に推戴せんことを會長より出願の處御許諾遊されたる旨六月十日御沙汰ありㅤ室に本會の光榮とする處なり

右は去月五日特に及御通報置候へとも尚茲に再錄す

明治廿九年七月

大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第八拾號

（明治二十九年七月三日發行）

講演

●生理解剖學講義

醫學博士　坪井次郎君　演說

段々と食物の御話を致しましても此前に肉類ソレカラ野菜穀類抔の御話をして、略食物の事は濟みましたが、今日はソレに附屬して居る飲料ものの事を申さなければならない。ソレは日本酒、麥酒、葡萄酒、シャンパン等の「アルコホール」性飲料のお話を致すのであります、是れは鳥渡考へますると必要の無いことのやうでありますが、併し然うではない、酒類も衛生上に必要の物故、一通り御話をして置かなければならないと思ひます。又茶咖啡なども、時によると衛生上の害になる事が有りますから、ソレ等の事も併せて御話して置かうと思ひます。

酒類は非常に其數は多くあつて、日本には日本の酒が有り、又外國でも各別の酒類を飲用して居ります。總て砂糖を含んで居る處の液が空氣中に置かれまする と、サウすると空氣の中から一種の黴菌が落ちて而して砂糖を變化させる。其黴菌は肉眼では見えませぬが、顯微鏡に掛けて見ると、圓形或は隨圓形を成して居る細胞であります斯う云ふ風に此黴菌が液中に入ると、砂糖が變化して「アルコール」に成ります、此「アルコール」の作用で酒を飲むと醉ふのである、今述べたる所の黴菌は大へんに大事のもので有ります。一體黴菌

と云ふものは、大へんに害のあるものゝ樣でありますが、此黴菌は大切のものである。而して此黴菌は何處にでもあるが唯今でも空氣中から取らうと思ふと取れる、葡萄酒麥酒も皆此黴菌で造るのであります。

扨て酒類は生理上に、ドウ云ふ作用の有るものかと云ひまするに、酒類は直接に營養上大事のものではない、何故なれば酒類は食物で無い、食物で無い以上は之を是非飲まなければ活きて居ることが出來ないと云ふものではない、酒は人の生活に必要の物ではない、即ち酒は一種の慰みの飲物で今まで御話をした食物とは違つたものである。人の活きて居るのに大切の物は、穀物、肉類、鹽、水等にして斯う云ふ物は無ければ活きて居ることが出來ない。併ながら酒に至つては決して爾うでない。ソレにも拘らず世界中何處でも酒を用ひない所はない。然る以上は酒に特別の必要が有るに違ひない。其必要を簡單に述べますれば、凡そ人は常に肉体及精神を勞する暇に多少の慰勞を要するもので隨意の散歩をするとか小説を讀むとか芝居を見物するとか或は音樂を聽くとか、種々のたのしみがあるが酒を嗜むのも其一であります。

併ながら酒を飲むには常に適宜の量を守つて健康を害せざる樣注意をせねばならぬ、決して酒を飲む爲めに働くやうになつては往けない、酒は極く適宜に飲んで居れば精神を慰むる事が出來る丁度煙草、茶と同じ事である併ながら酒は兎角爾うは往きませんで動もすれば之を用ひ過ぎ、ソレが爲めにからだに不測の害を及すことが多いのである。殊に習慣となつて常式に酒を飲むものである

と、ソレがために種々の害が起る、其害は第一に腸胃を損する、則ち酒客と云ふものは毎に腸胃病に罹つて居る。ソレが爲めに食物の消化が惡く、折角滋養物を食べても能く消化ない樣になる、尚は酒を多量に用ひ、殊に強い燒酎「ブランデー」を常に用ひると、內臓に恐るべき病を起す、即ち肝臓病、腎臓病、心臓病を發するやうになる、殊に老年に至ると危險が一層多い癌腫卒中等の病は酒客に多いのである。又彼虎列剌の流行るときも主に平生酒を飲むものが餘計殪れる。故に酒は適宜に飲めば害はないか、過度に至ると最も恐るべき害を招ぐに違ひない。

ソレから二三の酒の種類に就て御話を致しますが一番我々に大事のものは日本酒である、此日本酒に就て少し述べますが、其釀造法の委しき事は述べる必要は有りませぬが、御承知の通り日本酒は米を以て製するので米に麴を加へると米の澱粉が砂糖になつて恰も甘酒のやうになる。然る後空中より黴菌が入つて「アーコホール」が出來る。日本酒の中には「アルコール」が割合に多くありません百分中十三乃至十五位ゐの割合であります。之を麥酒と比べると、日本酒の方が「アルコール」が三倍程多くある。日本酒の良い種類の物でありますれば之を藥用としても宜しい、又平日之を飲料として用ひて差支ない。併ながら惡い日本酒であると「アルコール」外の或る成分があつて往々頭に逆上やうな事があります。サウ云ふものは宜しくない、故に日本酒も撰ばなければならぬ。

日本酒の中にザルチール酸を入れる事が多くありますがドウして斯う云ふものを混れるかと云ふに

是れは酒の腐敗を遏める爲めにするので「ザルチール」酸は毒物ではありませぬが日本酒の中に此藥品を入れると云ふことは善い事でないから、漸々に廢さなければならない。余程今日は廢されて來ましたから、誠に結構である、酒の中に「ザルチール」酸が有るか無いを試みるは容易い事故御目に懸けます。若しも酒中に此物が混入て居れば「クロール」鉄と云ふ藥を入れると紫色を呈します

之より葡萄酒の事を一寸述べます、是れは元來外國の酒で、主に飲んで居るのは佛蘭西である、佛蘭西は葡萄酒の國と云つて世界に名高い。葡萄酒は生理上申して見ますると酒の王と見做されて居る、酒類中で最も品位の高いものである。則ち世界中の酒類の中で一番葡萄酒が良いには相違ない何故かなれば良い葡萄酒でありますると是れを飲用してその爲めに起る害が一番少ないのである。御承知の通り葡萄酒には赤葡萄、白葡萄酒との二種がある。是れはドウ云ふ差別が有るかと云ふに赤葡萄酒の方は葡萄の皮を共に入れて釀すのである、ソレ故に皮の中の色素が混る爲めに赤い色になる、而して皮の中には澁味が有る、ソレゆゑに赤葡萄酒は澁味を帶びて居る白葡萄酒は釀造するときに皮を去つたものを用ゆる故皮の色素が入つて居りませぬから、ソレで色が赤くないのである併し白葡萄酒と云ふのはうそで、黄葡萄酒と云ふのが眞個でありませう、赤葡萄酒と白葡萄酒とは生理上ドウ云ふ差異があるかと云ふに、赤葡萄酒は腸胃をかためる作用を持つて居る、是れは今御話をして葡萄の皮の中の澁味、が腸胃のゆるむの

を止める作用を持つて居るからである、ソレに反して白葡萄を飲みまするど、腸胃を緩める作用を持つて居る、何故かなれば澁味を更に持つて居らないで、反つて酸味を持つて居るからである、ソレ故に夏時下痢を起し易きとき、或は虎列刺流行の時などに於ては成るべく赤葡萄酒を用ひる方が宜しい、白葡萄酒の方は往々下痢を起しますから夏時には注意して用ひねばなりませぬ。さて極く肝要の御話は今日日本でも種々の葡萄酒が出來て新聞などにも盛に廣告が出で、大分世間に用ひられて居りますが、ドウも悲しい事には、日本の葡萄酒は衛生上からいふと、良い品は極く少ない様である、何故なれば天然の葡萄酒が少なく人工に走り過ぎて多量の砂糖を加へるので、はやく言ふと砂糖水のやうであッて、斯う云ふものを飲むのは餘り感心致しませぬ。ソレ故成るべく御注意になッて葡萄酒を用ひになる必要があッたら、充分其品質を吟味して良い葡萄酒を御求めにならなければならない。近來日本では麥酒の醸造は大層宜しくなッて參ッたが、葡萄酒の方はドーモ、サウ參らぬ。

其次には麥酒で有りますが丁度葡萄酒が佛蘭西の名産である如く麥酒は獨逸の國民的飲料ものと見做されて居る、御承知の通り獨逸麥酒と云ふ位ゐで、獨逸が一番麥酒の良い物を出すに違ひない總て酒類が地方に因つて其種類が違ひまするには是れはドウも季候等に由る事と考へらるゝ、佛蘭西では葡萄酒、獨逸は麥酒、日本では日本酒、其他所に因つて燒酎などを飲む所もある、ドウも是れは季候寒暖の工合で、爾うあることゝ思われま

す、何にせよ獨逸人は最も好んで麥酒を飲む、皆樣もあるひは御聞き及びもありませうが、獨逸人が麥酒を日々飲むのは丁度日本で我々がお茶を飲むのと同じ事である、即ち獨逸……殊に南方の部分では、婦人は勿論小兒まで日々麥酒を飲んで居る。其麥酒を飲むコップは餘程大きいので、小なる方でも二合五勺入、大きい方に至ると六合入、此大きなコップを前に控へて、小さな子供までが麥酒を飲んで居る。其有樣は、初めて獨逸に往くと誠に奇異なる事に思はれます、日本で想像すると餘程不思儀な位いであります、ソレで彼方では婦人でも隨分一日中に五合くらゐは飲み、子供でも二三合は飲む、併ながら殊に余計に飲むのは學生及勞働者等で、一日に一斗五升位ゐは毎日飲むが殊に私の留學して居つた南獨逸のミユンヘンの市中は、獨逸中で殊に最良の麥酒を産出する處なり、同市にて數十軒の麥酒製造所が在ります。其中でも一番良いのは宮内省附屬で、宮内省の麥酒屋と云ッて、此處は品質も良く廉價に售るので大ふんに繁昌して居る、斯樣に皇室で奬勵するやうな勢ゆゑ、ミユンヘンの麥酒は隆に世界中の至る處へ輸出されて居る。ソレで彼地では食事頃殊に夕景になりますると、何處でも此處でも下婢に麥酒を買ひに遣るので、下女が麥酒のコップをいくつも金網の籠に載せて之をぶらさげて、往來を歩行て居る而して下婢を傭うにも極まッた給金の外に、一日にいくらの麥酒を飲ませると云ふやうに、丁度日本で給金の外に湯錢髮結錢を出して遣ると云ふが如くに給金外に麥酒を飲ませると云ふことを極めて雇ふ位である、日本では迚も想像

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の出來ない程に、麥酒を飲用することが隆である斷う御話をすると、獨逸では國民が皆麥酒に醉ふて仕舞うであらうと云ふ樣にお思ひなされませうが、決して爾うでない、獨逸の麥酒は大へんに輕い、日本の麥酒の半分位ゐしか「アルコール」が有りませぬから飲んでも左程醉はぬ。併ながら日に何升と云ふやうに飲むのは害が有りますが、極く少量なれば害は無いと認められて居る。日本でも近來大に麥酒の製造が盛になッて來て、殊に日本人には麥酒が口に適うといふ傾きで、從ッて良い麥酒の製造所も出來て、恰も獨逸風の麥酒が釀造さるゝやうになりました。已に今日の如く良い麥酒が出來るやうになりました以上は、是れを日本酒のかたはらに飲んでも差支は有りませぬ。或場合には日本酒より却ッて「アルコホール」が少ない故、麥酒の方が好いと云ッても宜しい、併ながら日本の麥酒は獨逸のものより殆ど二倍の「アルコホール」を含んで居る、ドウか成るべく日本の麥酒も「アルコホール」を少なくして味を好くしたならば日本酒よりも或る點に於て能い所があるかもしれぬと思ひます。

以上述べました日本酒麥酒葡萄酒、是れが主なる世界の飲料物であるので、外の物に就ては委しく言ふ必要は無い燒酎の如きは歐羅巴でも下等社會の者が飲むので、上等の人は飲まない、是れは無論害が有ります。又リキウル、シヤンパンは口あたりが宜いので、御婦人方でも飲み過ぎる事が無いとはいへないが、是れは大に愼まなければならぬ。強い酒を口あたりの宜いに任せて、澤山飲むと、「アルコホール」の爲めに、種々の害が有りま

すから注意をしなければならぬ。是れで「アルコホール」性飲料の御話は濟みました。其外の飲料物は茶、咖啡であります、恰も酒類が世界到る處に用ひらる、と同じやうに、茶、咖啡も世界中何處に往ッても飲まぬ處は無いといッて宜しい位ゐである、然る以上は何か飲むだけの必要が有るに違ひない。其必要は、生理上の作用より論ずれば茶、咖啡は之を飲みまするど、神經の作用を興奮して來るものである、疲れたときに是れを飲みまするど、なほ事業に堪えるやうになるのであります。ダから夜分眠くなッたときに濃い茶でも飲むと、サウすると再び勉强が出來るやうになる。斯くの如く神經を興奮しまするから茶杯をあまり澤山用ひると、興奮が過ぎて夜分眠らんとしても眠れなくなります。茶、咖啡は恰も牛乳の如く贋物が多くある。咖啡は餘り日本では必要は有りませぬが、咖啡の中に豆或は草の葉などを燒いて混ずるやうな事をする、近來歐羅巴では咖啡の代用に公然草の葉などを燒いて用ひる樣になッた。ソレは西洋ではなんでもかでも咖啡を飲まなければならない樣になッて居る故、咖啡のやうな作用はないが、貧民は咖啡の代に草の葉などを用ひ、或は麥を煎ッて咖啡の代にして居る場合もある。茶の贋造も一見したのみでは解らないが、時としては異植物の葉等を入れる事がある其差別を知りまするには、茶を一度煮て玻璃板の上に擴げて見まするど、茶の葉と云ふものは定ッた形狀を有して居る故、直ぐに解る。

其他食物の扶けをしまするものはいくらも有ります、御承知の通り香の物生薑、肉桂、山椒等の如

きものを食物に副へて食べるのは習慣となッて居る。ケ様の物は、別に身体を養ふ作用は持つて居らない、唯消化器の神經を興奮する、先頃中御話をした消化液を餘計に分泌させる爲めに、生薑或は唐辛子、山椒のやうなものを食べ、或は香の物を食べるのである。如何なる御馳走があつても、如何なる滋養物でも、必ず消化液の分泌を促がす物が無ければならない。總て食物の美味と云ふものは右等のものが有ると無いとに由つて違ふのである、肉などには初めより此ものを含んで居るから美味なのである。又野菜類は、素は左程に味の好いものではないが、砂糖、醬油等を以て味を附けると大へんにおいしくなり消化を助けるのである食物の御話は是れくらゐにして置きますが終に述べて置かなければならないのは、食器で有る、

食物を觸るゝ器物は餘程注意を致しませぬと、此器物の中に有害の金屬を含んで居る事があります、ソレが溶けて而して食物に混じて、知らず識らず之を食しまると、中害を受くるに違ひない。其有害物とは鉛などの溶けるのが最も恐るべきで有る。一番恐れの多いのは鍋類である、鍋で物を煮て食べるときに、其中の鉛などが溶けて食物の中に入ることが有る。殊に近來流行て來た如く鍋の内面に磁器の上塗をしたものは重寶であるが注意をしないと害を蒙ることが有るに相違ない斯ふ云ふ種類のものを段々衛生試驗所などで檢査をすると、動もすれば危險の金屬が有る事が多い斯ういふ鍋に對しては餘程氣を附けないといけませぬ。必ず鉛分の含んで居るか否かを檢査をして貰ッた方が宜い。其外藥鑵等も長い間水を沸すと鉛

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

銅の一部分が溶けて出る恐れがあります。之を飲みますると、一度や二度は何の障も見えませぬが、一年二年と、永く續いて居る中には腹が痛むとか、血色が惡くなるとか、神經痛等の症狀を起す故、餘程注意をしなければならない。其他常に用ひる皿小鉢の類は、其中の色素が溶けると云ふやうな物はないが、併し成るべくは平生御用ひになる食器は採色の無い無地のもの、或は玻璃器等にして一見不潔物の有るか無いかの分るやうな器物を使用するが宜からうと思ひます。

又器物を洗ひ清むる注意も、ドウも時によると清潔法が屆かないやうに思ふ。臺所で僅々一度位ひ巳に使用した皿小鉢等を水で洗ッて汚ない布片で拭くだけでは、洗ッても洗はないでも殆ど同じ事である一遍水で洗ッたる後亦更に笊か何かの中に入れて、清水を灌いで成るべく布片などで拭かないで、自然に乾かすやうにしたら宜からうと思ひます。其外些細の事の注意は一々枚擧する事も出來ませぬが、畢竟清潔と云ふ事が肝要故、ソレには成るべく注意を願ひたいのである。

●種痘法發明者善那氏頌德の記

○此編は善那氏種痘發明百年紀念會の編纂せるものにして紀念祭當日來會員に配布せしものに係る

凡そ此世の中に事物の發明を成し遂げて其便宜と利益とを傳えし人の功德は其發明の何にたるに拘はらず又其發明者は何れの國の人たるに拘はらず人に取り國に採りて其利益を受けつゝある上は縦

令瑣末の發明にもせよ其發明者の苦心と經營とは世間の人の記臆に留めて其人に對し敬愛の心を表すべきことは人の人たる德義たるべし况して其發明の功德は社會を利し万人を益し廣く世界を覆ので永世不朽に傳へし人に於てをや我邦德川の時代に於て百里の旅に十日を費やし又は百里の通信に前後往復十日廿日を費やせしことは尙今より三十年以前の事なりしに今や四通八達せし滊車電信の世となりて十日の旅も一日にして達し二十日の通信も瞬間に之を辨し得るに至りしは曾て世に此功德を傳へし發明者ありしに由るありされども其發明者は何れの國の人にして何れの時代に發明せし者あるや賴朝義經の名を云へは三歲の童子も之を知り大閤清正と云へは車夫馬丁も其名を記せども文明の世界に生活して事物の發明多きが爲めに今日我身我家に就き又我社會の上に就きて現に其發明の功德を受けつゝあるも世の學者を除きては尙其功德ある發明者の名をも記せざる人多きが如し亦是非もなきことゝ云わん歟

爰に古今未曾有の一大發明を爲せし人あり此一大發明とは乃ち牛痘の發明にして滊車電信にも万々優る所の者あらん人の健康あればこそ一家の繁昌一國の强盛をも期すべく滊車電信其他文明の事物をも用ゆるを得る所なれ特に人の此世に生れ尙幼年の時に夭折するこそ其の人の不幸は勿論兩親一家の悲歎は幾何なるや曾て歐羅巴各州を蹂躪せし佛蘭西帝の「シャールマン」も其一子を失ひて落膽の狀一方ならず全く望を世に絕て徒に神を念し人手を借らざれは身動のならざる迄に衰弱し又我邦の大閤秀吉も愛妾淀君の産落せし一兒鶴松を失

ひて其悲哀遣る方なく一室の中に閉籠り月を踰えて樂しまざりしは流石古今の英雄豪傑も我兒の爲めには恩愛の羈絆を脱する所なく愚夫愚婦に異なる所なきこそ眞に親子の情愛は他に譬ふる物なき所ならん以て世の人が其子を失ふの心を察すべし小兒も生長の後は大人となり如何なる英雄豪傑を出だし如何なる智者を出だすも計り難く未來の社會國家に取りては容易ならざる關係を致す所なり固より人の死するや一の疱瘡に依らずとは云へ曾て種痘の發明なき以前に在りては疱瘡は飽まで傳染の力を恣にし一旦こゝに發病せしや忽ち廣く社會に蔓延し小兒の之に襲はれて一時に幾千幾万の慘死に陷りしのみならず男女老幼も齊しく之に罹り或は一都府に數千人を斃し或は一國に數万人を殺し慘酷無殘を極めしは歷史の明かに傳ふる所にして今尙之を讀むときは如何に疱瘡の猛惡なりしやは人の心を寒からしむる所なり又曾て斯くの流行に襲はれ幸ひ生命を拾ひし者も其顏容は舊と變はりて忽ち醜き有樣となり小町楊貴妃の如き美婦人も今は花の嬌態端を失ない業平の如き好男子も亦性來の容色を損し其子に對する兩親に於ても朝夕其容貌の變れるを見て歲月を送るの情は果して如何がありしならん歟抑も我邦に始めて疱瘡の流行せしは人皇廿七代欽明天皇の十三年にして此事日本紀に見へしが今より算すれば千七百二年前にあり尋で人皇三十七代聖武天皇の天平九年に流行せし疱瘡の害毒は殆んど全國に蔓延し時の皇后陛下を始め奉り上は王侯公卿衆より下は天下の百姓に至るまで死する者殆んと數へ難しとあり亦以て疱瘡の如何に猛劇なりしやを知るべし夫より

我邦に牛痘法の傳はりし弘化嘉永の頃に至るまで幾數百年の久しき間とは云へ歴史の傳ふる所に依れは少なくも七八十回の大流行ありたり其之に死せし者は蓋し幾百万の數に達せしや之を世界各國の流行に就きて算すれは其死亡は亦果して幾千万の數に達せしや之を思へは種痘の發明以前に於て疱瘡の害毒を社會に流せしとは今日想像も及はさる所あり

但し今日の世の中には疱瘡の流行殆んと其跡を絶ち偶々流行の兆あるも種痘の法を施して直に之を防制し貴賤上下の別なく小兒を設けて種痘を受くるは恰も天然の役目の如く思ふて更に疑はす尚上より世話ありて一人殘らす種痘の功德に依るべきを諭し平時に在りても專ら其豫防を盡すとなりたれば曾て猛惡を極めし疱瘡の病毒も今は其力を恣にするの場所なきに至りて之が爲めに死する者なきは勿論世に痘痕ある人すらも殆んと珍らしき數に入り美女は天性の姿容を具へて失わす美男は本來の美質を損せず人生快樂の道を全ふするに至りしは豈に今日我々の一大幸福に非ずや嘉永以來此世に生れたる人なれば其身は勿論其妻子兄弟姉妹の臂の上に一二點の種痘の痕は必ず之を留めつゝあるべし是れ此發明のありし御蔭に依りて猛惡なる疱瘡の厄難を免れたるの印と知らざるか實に此發明の功德は現に我身の上にあり我妻子兄弟姉妹の身の上にあり我明治廿四年より同しく廿六年に至るの三年間折惡しく疱瘡の內地に流行せし爲め四万の患者を出だせしが種痘の一般に行はるゝ今日に於ても僅に之を怠る者あれば忽ち斯くの有樣なるを見れは此種痘の發明以前に在りて

は其害毒の慘狀なりしも實に察するに餘りあらん嗚呼此一大發明を以て其當時より今日まで現に世界万國の人民をして疱瘡の一大厄運を免れしめ偉大の幸福を與へしのみあらず世界に人類のあらん限りは未來永遠に際限なく其恩澤に浴せしめ人世無二の功德を垂れしは果して何人に出でし所あるやこれぞ今日我々が其發明の功德を追慕し恰も本年の五月十四日は其發明者が手を以て始めて牛痘を人間の身体に種へし百年期に相當すれは聊か自ら發起となり紀念の大會を開きて廣く其發明者の功德を世に知らしめんと欲する所なり乃ち此牛痘の一大發明者は惠度窊度、善那と云へる人と知るべし

◉惠度窊度善那氏牛痘發明の由來

惠度窊度、善那は千七百四十九年(我寛延二年の)五月十五日英吉利國の「グロセスター」侯が領地に屬する「バークレイ」と云へる處に生れたる人なり父を「ステーフエン、ジエンナー」と云ひ母の幼き名を「ベッド」と云へり善那は上に二人の兄と下に二人の妹ありて都合五人の同胞なりしが五歲の時に父を失ひて兄の下に養育せられ性來深く學問を好み種々學問の材料を集むるに餘念なかりしが其後「ブリストル」と云へる地の傍に近き外科醫にして藥種家を兼ねし「ダニエル、ルドロウ」と云へる人の門下に遊び外科の敎授を受くるとゝなりしは尙善那が其當時最も少年の頃なりけり

善那が種痘の一大發明に就きて其端緒を開きしは尙此「ルドロウ」の家に在りて外科の敎を受けつゝありし一少年の時にして其以前より牛乳を絞り

し奴婢等の間には一度牛の疱瘡に罹りし者は猛惡なる天然の疱瘡に襲はるゝ患は全く免るべしとの事は世の中に傳はりて善那より以前の人に於ても既に此事を耳にせしが誰れとて心を留めし者なく區々たる流俗の噂と侮り深く此事に思ひを籠めて穿鑿せんとする人もなかりしが或る時一人の小女は善那が師匠の家に來りて病の診察を受けしとき是れ疱瘡に罹りしなりと聞きも終らず小女は否な妾は疱瘡に何にとて罹るとあらん妾は曾て村に在りて牛の疱瘡を受けしと云へは善那は之を其塲に聽きて成程小女の言ひしが如く或は斯る道理もあらん果して牛の疱瘡に罹りて夫の猛惡なる天然の疱瘡を免れもせば牛の疱瘡より漿液を採りて之を人の身体に移し牛疱瘡を發せしめなは此恐るべき惡病を防ぐ力もありぬべし一番之を推し究めて天下萬民を救はんとこれより深くも心を留め唯此事をのみ考へ暮せしに或る日其朋友輩は善那の深く思ひに沈みし有樣を見て口々に足下は何にか心に思へる事のこゝに起りしやと問ひしに答へて善那は此頃一人の小女あり牛の疱瘡に感ぜし爲め眞の疱瘡に罹るべき筈は妾になきと語りし所を察すれは或は果して此事の眞理に叶ひて天然の疱瘡を防ぐの法もあらんかと聽きも終はらず朋友輩は大に善那を嘲りつゝ何にとて斯くの事やあらん足下は眞に無益なる事に心を寄する者なり尚も斯くの事柄に思ひを籠めて他の事に勉むる心を怠らば我々社中の邪魔物なれば直にこゝを逐ひ出すべしとて手強く善那を嚇かしけりされとも善那は此事の胸に蟠かまりて一日も心に忘るゝ時もなく終には此處を立ち退きしが其後千七百七十年（我明和七

年）英吉利の首府「ロンドン」に出で當時に名高き解剖大家「ジョン、ハンター」の家に寄留し其塾生の一人となりしが或る時師匠の「ハンター」に向ひ牛痘の事を語りしに「ハンター」は徒に思はずして實に之を試みよ且つ宜しく久きに耐へ又精細を要すべしと尋常ならぬ言詞を以て善那の心を勵ましければ善那は益す〳〵勇氣を鼓ひ飽まで之を研究せんとの心はこゝに定りけり抑も世の大事業大發明は其原因を尋ぬれば多くは常に世の人の眼に觸れ耳に觸れつゝも空しく之を看過すべき瑣細の事に心を留めし結果に出でし所にして夫の巨大なる蒸氣器械の海に陸に働きある大發明も其原は湯瓶の沸きし勢にて蒸氣の其蓋を吹落せし力に屹と心を留めし「ウースター」と云へる人より起り電信電話の大發明も死したる蛙の腿の上に圖らず二種の金類を載せしに忽ち躍りて生るが如き有樣ありしを見たるより二金交感の理を悟りし「ガルヴニー」と云へる人より起りしなりこゝに善那が一大發明乃ち種痘の法を以て万古不朽の功德を垂れ幾千万の民命を救しや無邪氣なる小女の一言もこゝに至りて海より深く山より高き意味を孕み善那の心に吹き込みしこそ遂に全世界人民の幸福を産みし基ひとは果して誰か其當時世に其事を知る者あらんや

善那は牛痘の事に就き師匠の「ハンター」に勵まされいよ〳〵之を研究せんとの心を爰に定しかは千七百七十五年（我延寶三年）我舊里の「バークレイ」に歸り熱心之に從事せしが或る時牛の乳房に發せし疱瘡の繪圖乳取女の手に出し牛痘の圖とを寫し取りて當時の名醫なる「ニューラード、ホーム」其

他「ロンドン」府の醫師に贈りしことあり謂て善那が牛痘の事に心を寄せしより二十年の星霜を過ぎて千七百九十六年（我寛政八年）善那の住みし地方に於て盛に疱瘡の流行せしとき或る豪家の一人の娘は其流行に襲はれて無殘の疱瘡に罹りしに之を看護し侍女ども相繼で同じ病に臥せしも其中一人の小娘は牛乳を搾るを業とせし者にして長き間傍に侍りしも少しも心地を惡くせざりしは其前つ方飼牛の乳房に膿瘡の滿てる者に接せし爲めに病に感し其手の指に數多き膿瘡を生せしことありしは善那の既に知りし所にして疱瘡の病人に侍りしも獨り傳染を免かれしは全く之が爲めならんと心に推して我說の果して眞理に叶ふを察し乃ち今より指僂ふれば正に一百年に相當する其歲千七百九十六年（我寛政八年）五月十四日に善那は「サラー、ネルメス」と云ふ牛の乳を搾り取る一人の女の手に出でし牛痘より漿液を採りて其名を「ゼームス、フ井ップス」と呼びし八歲許なる小童の小腕に種え接しがこれぞ善那が多年の苦心を以て始めて人體に種痘せし始めとこそ知られける但し此「ゼームス、フ井ップス」と云へる小童は果して誰れの子なりしや精しく載せし書物を見ざれども特り「スマイル」と云へる人の著書の中に善那は先づ其種痘を我子に試み始めしとあり左れば「ゼームス、フ井ップス」は果して我子にてありしならんか前代未聞の工夫を以て故と賤しき獸類なる牛の疱瘡の漿液を採りて換ひ樣もなき人の身體に移して之を試さんとて牛の疱瘡を受けし者は如何なる患に身を起し如何なる樣に變ずるやは當時の人の知る由なければ誰とて我最愛の兒女を與へて善那が始

種痘法發明者善那氏頌德の記

めての試驗に許す者あらん善那は如何に此試驗を實地に人體に試みんとて迚も人間に種ゑ試むる時の容易に得難きは固より當時にあるべきことにして寧ろ我妻をこゝに迎ひ我子を設けて試みるころ却て試驗の捷徑ならんと妻に我子は設けしも我最愛の子を以て之を試驗に供へんとて何にとて安りに爲すを得ん忍びがたき人情を忍びて爲すも十分の自說はこゝにありとは言ひ其子の八歲に至りしまでも尙其歲月を送りしは斯く人情のあるべき所にして千七百九十六年(我寛政八年)疱瘡の其地に流行せしや一人の小娘が牛痘に罹りし爲めに疱瘡の患を免がれしことを推し始めて我子に種ゑしあらん果して我子に種ゑしならば嗚呼此時善那は深く心に信用せし眞理のあるを思ふとは言ひ我最愛の子を以て始めて之を試驗せし其心底は如何なりしや特に其妻の情として縱令夫の善那が多年の苦心を果すべき試驗の爲めとは言ひ果して幾層の憐むべき心をこゝに起せしあるべし

善那が「ゼームス、フキップス」に種痘を試みしや其種ゑたる部分に於て爲めに牛痘を發せしかば其歲の七月十一日に至り天然痘の膿汁を採りて更に其皮膚の下に注ぎしに「フキップス」は少しも天然痘に罹るの患なく全く之を免がれたり又此同時に牛痘を採りし「サラー、ネルス」と云へる女にも天然痘の膿汁を種ゑ試みしに同じく疱瘡を免がれたりとぞ

善那は既に此試驗を經ていよ〳〵己が說の正しきを証せしかば其實驗せし所を記して牛痘論と題せし一書を著はし官立外科學院に贈りしに外科學院は之を用ゐす沒書の中に投せしかば其草稿も出版

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の運びに至らず空しくてゝに消へ失せけり抑も善那が種痘の發明は前後二十年間の經驗を積み漸くてゝに至りし者にして今は一點の疑なき古今未曾有の一大發明となりしも容易に世に容れられず却て善那が身の上に一時は非常の攻擊を受けしは亦是非もなきことゝ云ふべし善那は尋で千七百九十八年（我寬政十年）の六月に於て種痘に就ての一書を著はし牛痘は天然痘に罹ることを防ぐの力ある者なりと實例を擧げ繪圖を附し僅かに七十五ページの一小冊子なりしも二十年間の苦心を積みて今や斷然其說を結びし古今未曾有の大發明を書記せし書物も當時は其効なく學者社會には學問の上より出でし事ならずとて大に嘲を招きしが善那は敢て屈する色なく「ロンドン」に出でゝ其年の四月の頃より七月まで三箇月に涉りて其地に留まり種痘發明の事を以て之を醫學の社會に唱へ廣く其地に推擴めんと心を盡して周旋せしも「ロントン」の醫家は其當時誰れ一人とて用ゐる者なく是非なく「ロンドン」を立ち出でゝ我が舊里に歸りしが當時此事の世間に傳はりしや種々の評判忽ち起り善那は牛の疱瘡を人に移すとのことなるが彼れは人間も獸類も差別のなきを欲する者なり如何にして彼れは萬物の靈たる人間を獸と爲すを欲するや種痘せし小兒の顏色は自然牛の面に似るべし牛の疱瘡を種ゑたる疵はこれより牛の角を生ずべし種痘せる小兒の泣聲は牛の吼ゆる聲に似たりなど思ひも寄らざる讒言を以て善那を罵り善那を嘲り善那を怒り善那を恨み曾々牛痘を種ゑたる子供ありて其門外に出づることあればそれ人間の牛が出でたり牛の人間が遊びに出でたりとて村中の人

は石を抛ち其家の中に追ひ込みて少しも外出を許さゞりしとそれのみならず宣教師等は多人數を集めし公會に於て善那は此度何事ぞや牛の疱瘡より漿液を取りて人間に移すの工夫を爲したり是れ一の魔法なり妖術なり斯く怪しき事柄は決して人の受くべき者ならずと講談の中に公告し學者は之に反對して擧りて攻撃の説を起したり

斯く善那が種痘の發明は人民よりは罵られ宣教師よりは魔法と言はれ學者よりは反對の攻撃を受け甚しきは善那を以て仇敵と視し人さへ起りしが善那は種痘の發明の爲に已が一身を此間に置きて四方八方より攻め立てられし苦心の程は如何なりしやされども善那は敢て屈せず精神一到何事か成らざる道理は早既では一大發明を成し遂げて金石も亦既に透ふしたる効績は未だ世に知られず此同じ歳千七百九十八年(我寛政十年)に醫士の「インヘンハウス」氏は書を善那の下に贈りて己が實驗をも數多擧げ足下が牛痘は天然痘を防ぐの力ありとの説は決して同意は爲し難しとの旨を述べしに善那は我れとて實地の經驗は尚甚だ僅かのことなれば月を累ね歳を積み諸家の數多き實驗に依りて我が説の不當を證明せられなば最も望ましき所なりと最と眞率なる言詞を以て之に答ふる書面を贈りたり其後反對の説はますく起しも一方には善那の報告に依りて種痘を試むる人も出しが種々疎忽なる仕方もありて却て反對者を喙を容るべき强屈の材料ともなりければ善那はいよく心を苦しめ千七百九十九年(我寛政十一年)の四月五日牛痘研究の追加と題せし一書を出版して大に反對者の論説を駁したり左れども誰れとて其説の眞理を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

味ひし者とてなく却ていよ〱反對の熱度は爰に高まりけり此際善那は飽くまでも英國大學校の贊成を仰ぎて人の信用を得るころ早く世に我說を行ふの捷徑にもあらんとて已が意見を申し出でしも大學は之を擯斥して少しも顧みる氣色なく善那は飽まで我說を貫かんとて二十三回大學校の門を叩き數多の學士の面前に於て其正しきを證明せしも尙も之を擯斥して空しく善那を退かしめたり抑も善那が種痘の發明以前に於ては天然痘を防ぐの法は勿論世になき所なりしも曾て天然痘に感染せしめて其豫防となせしことあり是れ既に疱瘡に罹りし者は其後の流行の時に於て能く其健康を保存し得るも流行の疱瘡は殊に又數々惡性の者あれば其流行なき時に於て偶々疱瘡に罹る者は其症殊に良性にして且つ輕症の者なりとの二說を以て基となし却て流行の媒介と爲るべきことを知らずして特更天然痘を感せしめ豫防と爲せし所なり然れば善那の發明は獸類の牛より疱瘡の漿液を人に移すとの怪み多き所を以て痛く人の忌み嫌ひしと學者は學問の道理より出でざる工夫と輕蔑して固く之を信ぜざりしとは容易に世間に容れざりし基となりし者なるべし

但し種痘の發明は固より虛僞の事にあらず眞實萬民の効益と爲ることとなれば千七百九十九年（我寛政十一年）の四月二十一日善那の再び「ロンドン」に出でし頃は一方には强き反對者ありしも一方には漸く之を信用する者も出で來りて大家の婦人ダレー伯爵の夫人バークリイ等貴顯富豪の家に於て其兒女に牛痘を種ゑしむるものあるに至しが固より其時の施術なれば種々疎忽の仕方もありて爲め

に折角の一大發明も大に光を暗くせし所多ければ善那は最も力を窮めて其誤の多きを正し且つ英吉利及び其他の國々まで良き牛痘漿を供給せんとて亦も數多の日月を費やし其方法に苦心したりてゝに至りて善那が牛痘の發明は稍世間に行はるべき氣運の見えければ善那の功蹟を奪はんとて我れこそ牛痘の發明者なり我れこそ種痘の本尊者ありと世間に吹聽せし者は當時五六人の數あるに及びしとぞ

其後善那は千八百年(我寛政十二年の一月三十一日三たび都府の「ロンドン」に出で「エグレモンド」公の協議を仰ぎて牛痘所を設立してゝに良き牛痘漿を製造して廣く四方に頒つことを計畫したり其翌二月には「エグレモンド」公の邸宅なる「サッセクス」州に於て其近傍の人々に種痘し其發明は世の人の廣く信用を得るに至りしが此歳三月七日に於て「バークレイト」公は善那が一大發明の事を以て英吉利國王に奏聞に及びしに國王は深く之を賞し善那に拜謁を賜はりしかば善那は已が發明せし牛痘の著書を獻上せしに國王は之を嘉納あらせられ其同月二十七日には女王に拜謁して牛痘の事を申し上げ尋て陸軍の司令官より兵士一般に種痘することを依賴せられたり斯くて善那は「ロンドン」に逗留せしと數月に涉りしが其年の六月「ロンドン」を出立し「ヲックスフォルド」府に趣きしに其地の醫科大學教頭及び醫院の副長等を始めとし大發明家として歡迎したり爰に至りて善那の功蹟と名譽とは啻に歐羅巴の諸國に止まらず尙も他州に傳ふるに至れり

善那は其翌年乃ち千八百一年(我享和元年)の四月

に於て牛痘種接の起源牛痘の事實及び觀察の進歩といへる二書を出版せしが善那の發明は今は早や攻撃非難の聲も消えて學者の反對論も其跡を收め世上一般に其功蹟を認めらるゝに至りしかば此歲に於て善那は諸方の人より大發明を祝するの詞を受け或は金牌を寄贈せられ「グロゼスター」の貴顯よりは賞典を贈られ露西亞皇帝陛下よりは金環を下賜せられ英國の艦隊よりは其兵士の一同に種痘を受けしを以て其醫官をして金牌を贈りて其恩義に報ひしめたり尋で英國の議院は其翌歲の千八百二年（我享和二年）に於て滿場一致の議決を以て善那が發明の功蹟を賞し二万ポンド（一ポンドハ我凡ソ九圓餘）の賞金を與へたり是歲善那は一旦故鄕の「バークレイ」に歸りしが其翌歲乃ち千八百三年（我享和三年）の二月四度目に「ロンドン」に出で善那種痘所を設けんことに奔走したり此種痘所は其後數年を經て國立の者になりしとぞ其後千八百六年（我文化三年）「ヘンリー、ベッチー」公は官立内科醫院に向ひて善那の發明を研究せんことを求められしが内科醫院は之を容れて大に研究し果して善那が種痘の發明は世に効益ある者たるを賞して其功蹟を報せしかば衆議院は又もや二万ポンドの賞金を與ふることを議決せしとぞ當時「グーヅェー」と云へる人ありて善那を賞揚し牛痘を傳ふることは特に今時の發明なれども其恩澤は決して今日に止まらず永世無窮に及ぶべしと言へり又嘗て牛痘の亞米利加に傳はりし時其國の碩學「ウォーハウス」は醫學社會の一大奇事と題して善那の發明を報告せしことあり嗚呼善那が種痘の發明に就きて始めて心を定めしより爰に至りて二十六年の長き歲月も艱難

と苦心を盡して送りしのみならず非難攻撃に迫まられて殆んど其身をも危ふくせし心の底は如何なりしやされども今や其事は遂に目的を達し得て世界各國に功蹟を博し万古不朽の名譽を耀かせしときは其快樂は如何なりしや思ひ遣るさへ娯しけれ

（未完）

衛生叢談

◎警視廳東京府告示

虎列剌病豫防に關する各自の注意に就ては去る四月廿二日告示の次第も有之處頃日府下に數名の虎列剌病患者發生し殊に炎暑の季節に際し各自の攝生極めて必要の時期なるに付飲食物の注意は勿論家屋の内外を掃除し常に清潔を保持し病毒に侵されざる樣嚴戒すべし

◎再歸熱流行地及び患者數

再歸熱は香川縣に最も多く流行し次に德嶋、千葉、栃木各縣下にも流行し昨今次第に蔓延に傾きたるよし今、昨日迄の調査に係る全國患者の數を聞くに既に二千四百餘名に達せし由にて之を縣別にすれば香川縣に一千七十一人（死亡五十五人）、德嶋縣百八十一人、千葉縣七十八人、栃木縣五十七人、（死亡二人）、群馬縣三十二人、靜岡縣十四人等にして長野、岡山、京都、大阪、福嶋地方にも多少の患者あり右は確實なる分のみにして實際は尚は之よりも多しと云ふ

◎岩手縣知事の告諭

服部同縣知事は海嘯後直ちに被害地の人民衛生に關して一篇の告諭を發したり今其要領を擧ぐれば

(一)先づ屋傍の地面及び溝渠等の殘溜は速に疏通せしめ其沈澱したる汚泥塵芥を掻き取るべし(一)水害後は飲用水に不自由あるものなれば井戸浚を爲すは必要あるが之れに着手するには先づ近傍の不潔の場所を掃除し然る後井戸浚に着手すべし(一)井水は濟みて臭なく又不快の味なきに至りて飲用し且つ煮て用ゆべし(一)壁柱の水に浸されたる部分は石炭酸水又は石灰乳にて十分に拭ふべし(一)床板は之を剝して洗ひ又床板を上げたる際焚火して家屋内の乾燥を力むべし尚又床下に生石灰を撒布すべし(一)屋家の窓戸は開放して大氣の流通を促がし器具は都て洗滌すべし

◉全國虎列剌患者と死亡者

近頃虎列剌患者續々發生して漸次蔓延せんとする傾向あり今内務省の調査に依り初發以來全國の罹病者及死亡者を擧れは左の如し

府縣	初發月日	罹病者	死亡者
東京府	四月十七日	一六	三
大坂府	仝　廿六日	一二	四
千葉縣	一　月	四〇	二八
福岡縣	二月廿九日	六	一
宮崎縣	六月廿四日	二	未詳

◉嚴禁したる差入物の種類

警視廳監獄にては目下虎病流行の兆あるにつき近頃左の種類の差入物を嚴禁したりと云即ち赤飯五もく飯、生節、鯖、鰹、烏賊、蒲鉾類、天麩羅、貝類海老、豆腐、油揚、隱元豆、茄子、唐茄子等なりといふ

◉嘯害地の病傷者

嘯害地負傷者は流木家屋に衝突せし爲め打撲を受けしもの多く肋膜炎も亦外傷性にして久しく海中に溺れ後濕衣を着用して感冒に罹りたるが如きも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

亦一の誘因ならん殊に氣管支加答兒等に於て然りとす外傷は頭蓋及び四肢の突出部に見る殊に下肢に著るしとす軀幹に在ては胸部脊柱等を除き其他は小挫傷小擦過創等あり創面は悉く化膿に陷り且發熱するもの多しと、又青森縣の郵信に曰く患者の中には打擊によりて負傷したるものもあれど多くは納屋等に積み置ける鰯〆粕幷に魚油の潮水に混じたるを飲みたる爲め肺焮衝を起し居るものにして尤も過分に飲まざれば即時に發病せずと雖も一週間乃至二週間を經過するに從つて次第に患者を生じ來るものゝ由にて醫員の見込にては今後追々に患者を增すならんと云へり左れば役場にても其旨通知するや即日より續々として治療を乞ふもの絕えざる有樣なりと

◉海嘯と疫病

大洪水の後には必ず大疫病の流行を見るは古來より免れざる事の由あるが海嘯の後にて疫病の流行することと昔より其例なしと云ふ今某國手の言ふ處を聞くに紀元千七百三十七八年頃葡國リスボン府及伊國マドリンド府に大震災あり引續き大海嘯の襲來ありて人畜の死亡家屋の流失數ふべくも非ず然るに玆に怪しむべきは兩府に於て年々流行したる疫病は此の天災に乘じて夥しき慘害を逞くするやと人々危惧の念を抱きしに爾來兩府とも疫病の發生なく却て平年より無事なるを得たりと云ふ倘又た吾國にても明治十七年岡山縣附近海嘯の折りも被害後疫病の流行絕てなかりし事あり今其の原因を研究するに洪水は多く淡水なるがゆゑに土地に濕氣を殘し且つ村落市街等より漂流し來れる不潔物を永く地上に留め爾後太陽熱に逢ひて腐敗と

蒸發とを爲すを以て洪水の跡には必ず熱性病の流行は如何とも人工を以て防遏すべからず之に反して海嘯は潮水なるが故に田畑を荒し植物の發生を妨ぐる點は洪水より大なれども人畜の衛生上に至りては第一土地の不潔物を海中に渫ひ出し第二濕氣を地面に殘留するに淡水の如き害を人畜に與へざればこそ古來より海嘯被害後惡疫流行の災を免るゝなりと云ひ去れば今回の如き海嘯後被害地の衛生として先づ死体の取片付けをなし次に井戸を清潔になし倘又假家屋の建築方に注意せば惡疫病襲來の虞なし云々と某國手は語れり

◉沸騰散

平生食過に用てよし藥品を別々に貯えをき臨時度々飲みて甚だ便なり

結晶重炭酸曹達　五分　拘櫞油　二滴　酒石酸(末となし)壹分　白砂糖　五分

右先づ結晶重炭酸曹達拘櫞油砂糖とを冷水中に入れよくかき交せてとかし其上にて酒石酸を入るれば湯の沸騰するが如く其の煮たつ時に一度に服用するなり是は兼て交せおけば其功少なきを以て常に胃病に苦み又は胸やけて酸きおくび出る等のくせある人は常に此曹達と酒石酸を貯へおくべし食あたりにて吐きたる後に用ひてよし又胸あしきときに用ゆれば心下開きて嘔氣止まるなり故に一名を鎭吐散とも云ふなり

◉大日本婦人衛生會の救恤

三陸大海嘯の報あるや本會に於ては左の順序方法により會員の義捐を乞ひ直に嘯害地へ寄送するに至たり

今回三陸地方大海嘯侵害の慘狀は會員諸姉の既に知悉せらるゝ處にして五千の人家は海底に沈み三万の死屍波上に漂ひ家屋の流潰は殆んど二万に達し財產の損害負傷者の數實に枚擧に暇あらず殊に万死に一生を得たる生存者にありては食ふに飯なく着するに衣なく住家なく父母親戚故舊の身を寄するに處なく孤獨の薄命者累々相擁して日夜旻天に號泣すと同胞の情豈に傍觀するに忍びんや玆に於て本會役員一同發起者となり博愛なる會員諸氏の義捐に依賴し食物に次ぎて最も必用なる衣類の寄贈を乞ひ受け之を罹災者に賑恤するも又今日の急に應ずるの一方法なるべし其寄贈方法の如きは別項記する處の諸項を御熟覽の上多少を論せず寄贈せられんことを冀望に堪へざるなり

一　海嘯地への寄贈品は會員諸氏より古單物類を請ひ受け寄送するものとす
　但單物類は男物女物小供物等の差別なしとす

一　會員の都合によりては單物類に代ふるに金圓を以てせらるゝも妨げなしとす此場合には役員等に於て反物地を購ひ裁縫の上適宜發送するものとす
　但金圓寄贈の場合には一人參拾錢以上とし學生は拾錢以上と定む

一　寄贈の便宜を圖らんが爲め各區に委員を置けるを以て寄贈金品等は隨意近傍の委員宅迄御屆けありたし

一　寄贈者には寄贈品目を記載したる領收證を委員より差出すべし尚本會よりは雜誌面に揭載して詳細報告すべし

一會員の委員宅へ寄送すべき日限は七月二〇日を以て締切とし翌日は委員一同會合の上直ちに發送の手續をなすものとす

一寄贈金品取扱委員宿所姓名左の如し

芝區

仁禮壽賀子（芝三田綱町十番地）
上野幾子（芝高輪南町五十七番地）
山田その子（芝田町四丁目六番地）
清水とし子（芝城山町九番地）

京橋區

西靜子（卅間堀三丁目十七番地）
宮下咲子（因幡町七番地）
西升子（卅間堀三丁目十七番地）

神田區及日本橋區

高木こう子（鈴木町十六番地）
三浦敎子（北甲賀町）
濱田捨子（北甲賀町十番地）
宮本樂子（雉子町三十番地）
岩崎早苗子（東紅梅町十七番地）

麻布區

松平芳子（市兵衛町二丁目八十九番地）
南部限子（本村町四十七番地）

小石川區

濱尾作子（金富町三十三番地）
鳩山春子（音羽町七丁目十番地）

麹町區

北澤信子（中六番町九番地）
加藤常子（五番町十四番地）
三井晴子（富士見町五丁目十番地）
加藤すゞ子（上二番町四十四番地）

牛込區

穗積うた子（揚方町九番地）
木内礎路子（市ヶ谷田町二丁目四十番地）
中橋悦子（下宮比町）
小笠原純子（市谷河田町）

下谷區及淺草區

中濱芳子（下谷天王寺町三十番地）

本郷區

緒方悅子（東片町百六十番地）

坪井國子（西片町十番地百三號）
丹波さだ子（弓町二丁目）
岡田德子（西片町十番地）

赤坂區

羽田み緒子（一ッ木町八十一番地）

四谷區

馬渡玉子（南豊島郡淀橋町七百二十四番地）
鳩山春子（小石川音羽七丁目十番地）

本所區及深川區

婦人衛生會事務所（下谷練塀町四十三番地）

右之如く各區に委員を設けて會員の寄送を求めしに義俠博愛の諸氏は何れも續々委員宅迄車を驅りて夫れ〳〵衣類若くは金圓を寄送せらるゝに至り總計無慮千八百有余点以上に達するに至りたり三日以後は一同打ち集り發送の準備を爲せり反物若は新調せる單衣等には一々本會印章を襟裏等に捺し三縣寄送數の割合は被害の多寡に比例して配與することゝし岩手縣の如きは殊に嘯害烈しきが故に多數の衣類反物等を寄送することゝせり五日には荷造を爲せしが總數大莚包拾七個とあり即日午后十一時三陸地方出發の滊車に搭載せんと欲し甚だ多忙を極めしが其甲斐ありて全く發送することを得たり定て今頃は嘯害地方人等の會員諸氏の恩惠を戴きて感涙に咽びつゝあるべし茲に發送迄の順序の概畧を揭けて博愛義俠なる會員諸氏の義捐を謝す

本會より三陸知事宛寄送せし文左の如し

謹啓今回貴縣下大海嘯の災變に付不幸なる罹災者救恤の一端に供せん爲め本會々員の醵出せる物品別記の通遞送致候何卒御領収之上速に配付方可然御取計有之度此段御依頼申上候

敬具

明治二十九年七月五日
大日本婦人衛生會々長
子爵夫人　仁禮壽賀子

三縣知事宛（但各通）

岩手縣寄送分
一單　物　九百三十四枚　一單物地　三百六十五反
一雜衣類　五百二十点

宮城縣
一單　物　二百枚　一單物地　貳百反

青森縣
一單　物　三拾枚　一單物地　百反

以　上

廣告

◉會告

本會規則によれば七月及八月の兩月は休會の規定なれども是迄七月は炎暑甚だしからざりしが故に臨時會を開きしが今回は三陸大海嘯の爲め會員諸氏にも義捐相願候義旁事務も多忙に付本月の臨時會は休會致し候且又八月の集會は炎暑酷烈の折柄故例により休會致し候但し雜誌は七月八月共に例之通發行致し候此段及會告候也

◎去月より本月に至る入會者左の如し

◎會員山岡せい子の紹介により
赤坂仲ノ町十三番地通常會員　横山しん子

◎地方會員中野悦子の紹介により
新潟縣南蒲原郡加茂町　通常會員　皆川きみ子
新潟市上旭町　仝　鶴田うめ子
仝學校町二番町　仝　鈴木き代子
仝旭町一番町廿四番地　仝　平井こと子
仝學校町　贊成員　和辻春次君

仝高橋病院　仝　高橋辰五郎君
仝西堀通八番町　仝　中村勇三郎君
仝西堀通七番町　仝　長谷川寛治君
仝上大川前通七番町仝　若杉喜三郎君
仝本町通十三番町　仝　田代亮助君
仝寄居町　仝　池原康造君
仝學校町　仝　山元敬太郎君
新潟縣北蒲原郡濁川村　通常會員　眞嶋むす子
◉會員多田あを子の紹介により
京橋元數寄屋町二丁目十一番地　通常會員　長井ぬい子
◉會員樋口八重子の紹介により
日本橋浪花町二十七番地　通常會員　山本幸子
日本橋浪花町拾四番地仝　渡邊たか子
◉會員錦谷禮利子の紹介により
長野縣赤十字社支部　伊藤志計子
◉會員金子きみ子の紹介により
京橋水谷町三番地　通常會員　赤澤とく子
◉評議員加藤常子の紹介により

麴町上六番町卅四番地　通常會員　本田圭子
◉會員駿河あか子の紹介により
京橋新肴町十一番地通常會員　山田登利子
◉新潟支會よりの申込により
新潟市上大川前通十番町　通常會員　富岡つわ子
新潟市醫學町　仝　横あみ子
◉神田錦町三丁目二番地東京看護婦會よりの申込により
神田錦町三丁目二番地　市原いち子
◉會員武富すみ子の紹介により
麴町平河町六丁目十三番地　通常會員　柳川基礎子
◉菊池たけ子の紹介により
神田末廣町十四番地佐藤鬼子六方　瀧田みつ子
◉評議員宮本樂子の紹介により
濱町二丁目九番地共立看護婦會　森川かめ子
仝　永田てう子

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則

第一條 凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條 本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條 會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し
但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條 本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす
但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條 男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し
但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員(無會費)とすることを有る可し

第七條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條 本會は左の役員を置く 會長一名 副會長一名 幹事七名 評議員二十名 書記若干名

第九條 會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず
但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る
但幹事の分課を設けて 第一 會計 第二 編輯出版 第三 庶務とす

第十一條 會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條 會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條 會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條 本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條 毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條 會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條 講義演説の際男子の傍聽を禁ず
但會員に縁故ある男子は此限にあらず

第十八條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす
但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割増とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の増減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小送替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞爲費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　入會後轉居する者は速に事務所に通知ある可し尤も死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第三十條　退會せんとする者は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地

私立 大日本婦人衛生會

明治廿九年七月一日印刷

明治廿九年七月三日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷者　同　神田區小柳町十三番地　小高良造

印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可第一金曜日發行　（定價金拾錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN